

大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科この1年



緊張で張り詰めた4月の教室、

5月は爆発的に元気に

2005年4月、国際専門学校の新しい学科として表現・コミュニケーション学科が歩みを始めました。先生、生徒、スタッフ、ボランティア、みんなで作り上げた1年間をレポートします。

安定した居場所が人を変える

不登校や不登校気味、人との関わりを苦手とする生徒を対象とした表現・コミュニケーション学科(通称表コミ)がスタートしてもうすぐ1年です。一般の高校ではなく、少人数制のYMCAを選ん

でくる生徒にはそれぞれの事情があります。不登校のため長く同年代の友達と話していなかっ

るのには学級の居場所があること、自分が受け入れられてい

違いを認め、相手を尊敬するというキリスト教主義を貫き、仲間づくりに力を入れていきます。このことはYMCAがめざすもの、そのものです。

今年度は昨年比べて、学校見学の来校者が2倍になっていきます。ここに子どもたちの生きにくい社会を見るようです。苦しんでいる子どもたちもつともつといることを知ら

ミャンマースタディーツアー報告

物は乏しくてもこころは豊か

昨年12月25日から30日にかけて第17回ミャンマースタディーツアーが実施され、ユースボランティアリーダー・協力会員を含む11名が参加しました。現地のYMCAの活動見学や交流を通して、相互理解を深めました。

大切にすると接する時間

『人を助ける』とはどういうことだろう。将来、看護師として人を助けたいと思う一方で、この疑問に直面し考え悩む日々が続きました。「前に進めるチャンスかもしれない」。そう思い、このツアーに参加する決心をしました。

いる姿や、「可愛いね、安いね」と生き抜くために覚えたであろう片言の日本語を使って、ネットクレ

マンダレーを去る日、マンダレーYMCAのボランティアの方とこんな話をしました。「日本では親を殺したり、子どもを殺したりする事件がたくさんあるけれど、ミャン

マンダレーではそういう事件は少ない。なぜならミャンマーの人びとはいくら忙しくても人と接する時間を大切にすると、親は子どもが寝るときになると親の大切さ、人の大切さを教えて育てていくから

たり、小枝で「ひむろ」と文字を立体的に打ち付けたと本格的な作品が出来上がりました。また氷室の中を何重にも藁ともみ殻を敷きつめ

第2回「氷室作り体験キャンプ」

自然の中で学ぶ

1月28日(土)~29日(日)

六甲山YMCA



六甲山上には、約30数カ所の人工池がありま

のむしろで日除けした氷室に二枚重ねて貯蔵し、春から夏の時期に夜から朝にかけて日が上がらないうちに「アイスロード」より運び出し、ふもとへ降

まずは氷室の看板の作製をしました。前回の氷室体験から構想を練っていた参加者の方もおられ、もみ殻をふきつけて氷室の中の様子を再現し

た。神戸の町の風物詩として寒の氷という事から「カンゴリー」として親しまれていました。その再現プログラムとして六甲・摩耶エコツーリズム

